

手話通訳者（アンケート結果）

資料 3 - 2

調査対象：長浜市に居住する手話通訳士（者）【手話通訳士 1 人・手話通訳者 5 人】
調査方法：面談による聞き取り
調査期間：令和 3 年 10 月から令和 3 年 11 月

1. 年齢層

40代	1人	50代	3人	60代	1人	70代	1人
-----	----	-----	----	-----	----	-----	----

2. 男女別

女性 6人

3. 手話通訳歴

8か月～25年

4. 活動範囲

県内

5. 6. 専業・兼業別

他に職業がある 6人
フルタイム 5人 パートタイム 1人

7. 1か月にどのくらい通訳を行うか

4件/月～1件/半年 30分～1回2時間以内/件

※ 1 名はここ数年通訳の活動はしていない
※ 2 名が市の手話通訳のため、公務の通訳は除く

●手話通訳業務の内容

医療受診 学校行事等 自治会等 講演会 イベント

8. 9. ボランティア（無償）で通訳をすることがあるか

ない 5人 ある 1人
1人/月 延べ1人/月
2時間程度

10. どのように手話を学んだか

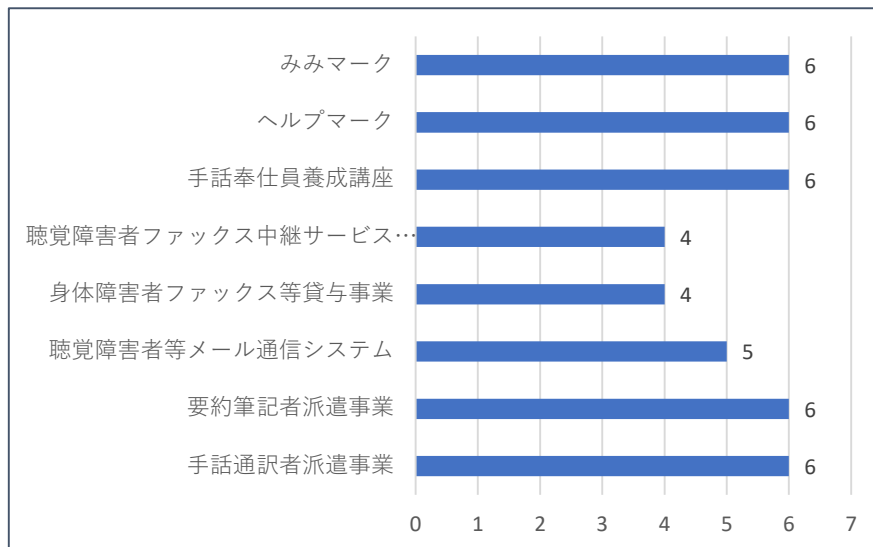
県・市町の講座 手話サークル

11. 手話で通訳（会話）をしているときに困ること

- ・市町の講座証明が暗いとき
- ・大人数の会話 複数発言の会議等.
- ・フェイスシールドの反射
- ・マスクで言葉が聞き取りにくい
- ・通じない時の方法
- ・相手の声が聞き取りにくい時
- ・通訳者と待ち合わせしていても、通訳が来るまでに用事を済ませてしまっていたことがある。

- ・通訳者を身内的に扱う。（診察の順番を待っている時に、通訳に待たせて離席してしまう、先に行って予約しといてと言うなど。）
- ・本件以外の要件をついでに頼まれる。
- ・待ち時間等に、通訳者個人の電話で電話をかけて欲しいと依頼されることがあった。
- ・講演会や自治会等の依頼主の手話に対する理解や配慮が足りないと思う事がある。

1 2. 1 3. 1 4. 長浜市の事業の認知度



1 5. 手話通訳士（者）を増やすために、どのような取組が必要か

- ・滋賀県の養成講座が草津しかなく、週1回2年間通う。湖北から参加される方はめったにない。交通費もかかるので、助成等を検討されてはどうか。
- ・手話通訳者同士の間関係も複雑な部分があり、せっかく市町の手話関係の仕事に就いても離職されてしまう方もいた。新しい方を受入れる環境を整えればいいと思う。
- ・入門講座を続ける。
- ・啓発を行う。
- ・経済的に生計ができるようにする。
- ・ろう者が、通訳者が必要と思わせること。入門講座や基礎講座などの中で、ろう者ともっと関わるような講座になればいいと思う
- ・通訳者を増やすことも大切だが通訳者までとはいかなくても、あいさつや日常会話ができる人がたくさんになることも大切だと思う。
- ・小さいころからの親しみが大事と思う。学校（小・中・高）への啓発をする。
- ・ろう者がサークルに入ってもらくことにより、より、手話の必要性が感じられ、充実する。

16. その他

- ・ろう者の特性を理解し、ろう者に寄り添った通訳を行うように心がけている。（わかっていなくてもわかったフリをしてしまう方が多いので、表情から補足説明をしたり、確認したりを要所要所で行うなど）
- ・手話通訳があれば、自立して生活できる方が多いのに、家族等が付き添うと家族の方が話をされてしまい、本人さんの意向等が置き去りにされてしまっていると思う。もっと通訳を使って、自分で判断されればいいのではないかと思う。
- ・自治体において、なかなか正規の手話通訳職員を設置されている市町がない。通訳の依頼がが四六時中あるわけではないので、手話関係の仕事で生計を成り立たせるには市町の職員くらいしかない。
- ・災害の時の初期対応は、放送がほとんどなので、聞こえない人は取り残されてしまう。早い段階で、振動や光で知らせる仕組みができないか。
- ・サークル同士の交流があればいいと思う。
- ・ろう者にもっと情報の提供をしてほしい。